

TOMONI

と

も

に

vol.14

特集

歴史に培われた高い技術で
地域の医療に貢献

耳鼻咽喉・頭頸部外科

医療最前線

百薬の聴

この情報 ウソorホント？

真っ赤に完熟したトマトを
ひたひたのお出汁に漬けて込んで
冷やすだけで完成の簡単おでん。
口に入れるとトマトの甘みと
お出汁の風味が広がります
お子さんから高齢の方まで
おいしくいただけます

お出汁しみしみの、冷たいトマト



より高いレベルの診療を、 地域の皆さんへ

耳鼻咽喉・頭頸部外科 診療部長
頭頸部がん専門医

志村 英二



すでにご存知の方も多いかと思いますが、2020年1月、当院も含めた、すべての東京慈恵医科大学附属病院は、それまでの耳鼻咽喉科から耳鼻咽喉・頭頸部外科へと名称を改めました。

耳鼻咽喉・頭頸部外科の診療範囲は、脳や眼球を含まない目から下、そして肺より上とされており、頭頸部外科は、主に耳、鼻、咽喉頭はもちろん、口腔、甲状腺、頸部食道に至る広範囲のがんや良性腫瘍を扱います。

耳鼻咽喉科といえば、主に「耳と鼻」というイメージが強いと思いますが、当院ではこれまでも耳鼻咽喉科で頭頸部がんの診療を行ってきました。高齢化でがん患者が増加するのに従って頭頸部がんの専門医も増えてきことなどを背景に、日本耳鼻咽喉学会が日本耳鼻咽喉・頭頸部外科学会と改称するのに合わせ、当院でも名称を改めるに至りました。

そもそも、1892年に日本で最初に耳鼻咽喉科という科を開設したのが東京慈恵医科大学附属病院です。それまで耳科や鼻科などは独立して存在していましたが、いわゆる耳鼻咽喉科という形で標榜したのは、世界でも慈恵医科大学が初めてです。その初代教授の金杉英五郎は東京慈恵医科大学の初代学長でもあります。こうした経緯を見ても、慈恵医大の耳鼻咽喉科は、日本でも最も歴史が深い科と言えます。

当科の強みは、歴史を持つ慈恵医科大学附属病院の一院として、耳鼻科の中でもそれぞれ分野に専門性を持ったスタッフが多いので、専門性が高く、「死角のない診断・治療」ができるということです。すでにご説明したように耳鼻咽喉・頭頸部外科の守備範囲は広いと、全てを網羅している医療機関は多くはありませんが、当科では基本的には診られない疾患はないと言っていいでしょう。極めて特殊な症例の場合も、さらに専門性の高い本院へつなげることによって、どこよりも高度な治療を受けることができます。



顕微鏡

耳の中を見るためのもの。耳垢や異物を取ったり、鼓膜の穴を防ぐ処置をする際に使われます。



電子スコープ

解像度の高いファイバースコープ。鼻や喉の状態を観察するときなどに使用します。

また、第三病院は大学病院では数少ない緩和病床が設置されており、2026年度の新病院開院からはあらたに緩和病棟が開設される予定です。その意味では当科のがん患者さん方にもシームレスな医療、切れ目のないがん治療が提供できると考えております。

さらに、新病院開院にあたっては、当科も電子スコープの増設など設備を充実させていくとともに、放射線治療においてもIMRTなど精度の高い放射線治療機器の導入が予定されており、副作用の少ない、より精密ながん治療ができるようになります。

地域の皆様にとって、今後もより安心できる医療をご提供できるよう尽力してまいります。

耳鼻咽喉・頭頸部外科での診療内容の一例

- 慢性中耳炎、中耳真珠腫、耳小骨の先天異常、耳硬化症などに対する聴力改善手術（内視鏡手術、人工聴覚器手術を含む）
- 成人の難聴の診断と最適な治療の提供（人工聴覚器、補聴器を含む）
- 顔面神経麻痺に対する薬物治療及び手術治療
- 慢性副鼻腔炎とくに難治性副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻内手術
- アレルギー性鼻炎に対する手術治療、薬物療法、免疫療法
- 閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する診断と治療
- 頭頸部がんに対する手術、放射線治療、化学療法などの集学的治療
- めまい疾患の診断と治療





特集

歴史に培われた高い技術で地域の医療に貢献

耳鼻咽喉・頭頸部外科

耳鼻咽喉・頭頸部外科 病棟長

木村 亮平 さん

患者さんにとって負担の少ない内視鏡による副鼻腔炎手術

当科において圧倒的に多いのは鼻の治療、特に副鼻腔炎の治療には遠方から来院する患者さんも少なくありません。というのも鼻の治療の手術でメインとなる内視鏡手術のうち、副鼻腔炎に対する内視鏡手術を世界に広めたのが慈恵大学附属病院だからです。現在は、副鼻腔炎の手術は全て患者さんにとって負担の少ない内視鏡内で行われています。

伝統のある科として、手術でも高いレベルを維持することが求められます。副鼻腔炎の手術では、幾つも分かれた鼻腔の壁を開いて膿がたまらないようにするのが、このとき、壁をいっさい残さないよう、大きく、きれいに穴を開け完璧に開口することを徹底しています。これにより、再発率は全国平均よりの低いラインを維持しています。

ここ数年は、難治性のアレルギーが関係する副鼻腔炎が増加しており、一度しっかり手術をしても再発してしまう厄介なケースが多く見られます。この場合、きちんと管理してい

も、再手術を繰り返したり、長期にわたってステロイドに頼らざるを得ない状態になってしまう人も多かったのですが、近年は抗体に直接作用する新しい薬剤ができ、ステロイドに依存することなく、すっきりと治るようになりました。

副鼻腔炎などの鼻の病気は痛みがないうえに、生命を脅かす疾患ではなく、ある程度我慢すれば慣れてきてしまうので、放っておきがちです。しかし、自覚はなくても、副鼻腔炎の症状が続いていると、QOL(生活の質)は確実に低下します。特に若い方、仕事をしている方ほど、パフォーマンスを上げるためにも、きちんと治療することをおすすめします。実際に手術を受けた方たちからは、「なぜもっと早く手術を受けなかったんだろう」という声も多く聞かれます。

鼻づまりや鼻水が長く続く場合は、副鼻腔炎やアレルギー性鼻炎が疑われます。まずは一度、診察を受けましょう。



永井 美耶子 さん

喉のがんも新しい薬や治療法で、声を失わずに治療することも可能に

耳鼻咽喉・頭頸部外科の中でも、私は主に内科の立場で、放射線治療や抗がん剤といった手術以外での頭頸部がんの治療に携わっています。

喉のがん場合、以前は手術によって喉頭を切除し、声を失うという方がほとんどでした。でも現在は抗がん剤もいろいろな種類が出てきています。さらにここ4、5年は、免疫療法など新しい治療法の確立もあり、声を失うことなく、がんを完治することもできるようになりました。喉を温存できるということは、多くの頭頸部がんの患者さんにとっては福音とも言えるでしょう。これらの治療法を通して、患者さんのQOLを保ちながら元の日常生活に戻っていただくためのお手伝いするのが私の役割であり、やりがいを感じています。

それに加え、私自身が現在、大きな関心を

持って取り組んでいるのは終末期のがん患者さんに対する緩和ケアです。痛みのコントロールは当院の緩和ケアチームが担当し、私は耳鼻科の専門医として、患者さんの状態が今後どうなっていくか予測し、よりよいケアの方法や薬などについて、緩和ケアチームと相談しながら進めています。

望んでがんになる方はいらっしゃいません。精神的・身体的につらい中、いかに一緒に頑張っていたかということに力を注いでいます。常に心がけているのは、目の前にいる患者さんが自分の家族だということ。自分の家族だったらどうするか、家族のこういう症状になったら自分はどう思うのかという点はこれからも失わずに、そして、その患者さんにとってのベストを私もサポートしていけたら、といつも思いながら診療に携わっていきたくと思っています。



耳鼻咽喉・頭頸部外科 医局長・外来医長

加藤 雄仁 さん

治療の決め手がないめまい、体を動かすことで改善

耳の分野で近年、注目されているのは難聴です。2019年に中年期からの難聴が認知症の危険因子になっているという研究結果が発表されました。いわゆる加齢による聞こえづらさではなく、40代、50代からの難聴が対象で、会話や生活に支障が出るほどではありません。それだけに難聴として実感はなく、本人だけで気づくのは難しいと言えます。急に変化しない限りは周囲から聞き取りの悪さや反応の悪さを指摘されるといった形で発覚することが多いでしょう。いずれにしても、聞きづらさを感じるであれば早めに受診し、対処することが必要です。

また、私はめまいを専門分野としています。めまいの原因は多岐にわたり、疾患原理も複雑で特定が難しいことも少なくありません。はっきりと診断されないまま、薬だけ出されて経過観察が続いているといった話を耳にされることも多いのではないかと思います。

ます。薬にしても、めまいの特効薬というものはなく、一番新しい薬でも発売から数十年は経っているというのが現実です。

とはいえ、1つ言えるのはめまいの治療としては、前庭リハビリテーションと言われるめまい体操が効果的だということです。めまいが起きたとき、皆さんはどのようにされているでしょうか？ 安静にしなければと、じっとしている方も多いと思います。実はめまいは多くの場合、頭を積極的に動かしたり、運動したりすることが重要なのです。

もちろん、むやみに動かせばいいというわけではなく、めまいの疾患原理や原因によって、適切な体操の方法は異なってくるので、医師の診察を受けたり、指導を受けることが必要です。めまい治療の決め手とは言えないものの、こうした対処法を行うことでめまいを改善することは可能です。どうせ治らないと諦めず、受診いただければと思います。



顔面骨骨折の治療の現在

形成外科 診療部長
吉田 拓磨



日々安寧を求めて過ごしている豊かな人生の中でも、時に不幸なことに、運動中の外傷、飲酒やふらつきによる転倒、交通事故や暴力などによって、顔の骨が折れてしまうことがあります。

顔面骨骨折は、受傷部位や程度により様々な症状があります。特に目の周辺の骨折では、視神経の損傷、眼球を動かす筋肉や神経の麻痺の絞扼に注意が必要です。頬や歯の感覚知覚異常を伴ったり、陥凹やゆがみが目立つこともあります。

一度骨折して移動してしまった骨は、自然に元の位置に戻ることはありません。骨の転位が軽度で、手術を行わずに治癒する症例も少なくあり

ませんが、骨折に伴う症状や顔の変形が強い場合は、手術で骨の転位を戻し、プレートで固定することが必要になります。

当科では二ノ宮邦稔前診療部長と石田麻佐絵医師を中心に、龍谷大学と共同研究を行い、顔面骨骨折修復用固定プレート周囲のバイオメカニクスアプローチによる、衝撃特性評価の研究に力を入れてきました。

そこで得られた知見による固定用プレートの最適化を取り入れ、さらに術中超音波などを併用することで可能な限り切開を最小限に抑えた手術治療を目指しております。万が一顔をお怪我をした際は、ぜひ一度ご相談ください。

図1 頬骨骨折後の骨折片の応力解析。骨片に力がかかり、色のついた部分に骨片の変位が起きています。

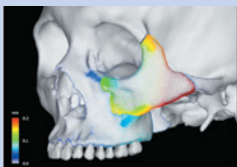


図2 一般的な頬骨骨折の固定法。骨折で動いた骨の位置を戻して、プレートとスクリューで3カ所を固定します。

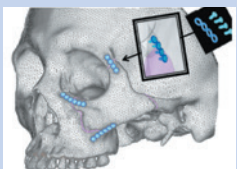
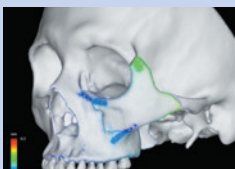


図3 固定後の応力解析。(3カ所固定時)骨片をプレートで固定すると、噛み込み時でも骨の変異変位がほとんど起きなくなります。



図4 固定後の応力解析。(2カ所固定時)解析の結果、2カ所の固定でも、噛み込み時の変位が少なく、良好な固定性を得られることが示唆されました。



※1、2、4はいずれも噛み込み時の応力解析。

第3の星



今回は

リンパ浮腫ケア外来 看護師 小平 真琴さん 諸星 真梨絵さん

患者さんに寄り添いながら、一人ひとりに合ったケアを提供



2024年4月に開設されたばかりのリンパ浮腫ケア外来に勤務するお2人。ともにリンパ浮腫セラピスト資格を持つ看護師です。がんやその治療によって、手足などにむくみが生じた外来の患者さんに対して、医師の指導のもと、マッサージなどの施術のほかセルフケアの方法の指導や圧迫着衣の

選定をするのが主な仕事です。ひと言で「むくみ」と言っても、症状は様々。患者さん一人ひとりに合った方法を考えながら指導することを心がけています。

「リンパ浮腫は、一度発症すると完治が難しく、気長に付き合っていかななくてはなりません。時間はかかりますが、患者さんの話を聞き、生活や大事にしていることなど、その方をよく知って寄り添いながら一緒に考えていきたいと思っています」(諸星さん/写真右)

「陰部の浮腫など、デリケートな悩みをなかなか相談できずに悪化させてしまう人もいます。まずは相談できる場所があるということを知っていただき、症状によって様々な治療方法があることを伝えて、相談へのハードルを低くしていきたいですね」(小平さん/写真左)

くすりの
耳寄り情報

百薬の
聴



アレルギー性鼻炎の薬の注意点

アレルギー性鼻炎に使用する代表的な薬に抗ヒスタミン薬があります。抗ヒスタミン薬は、ヒスタミンが鼻粘膜の神経などを刺激するのを抑え、くしゃみなどの諸症状を改善します。しかし、ヒスタミンの働きが妨害されると「眠気」や「判断力の低下」を引き起こすおそれがあります。そのため、車の運転・仕事・勉強・スポーツなど、長時間集中しなければならない場面では注意が必要です。現在はこれらの症状を緩和した薬剤などもあるので、ご不明点などある場合は、お気軽に医師・薬剤師にご相談ください。

薬剤部 皆川 卓也

この情報

ウソorホント?

Q

高齢ドライバーは
認知機能が落ちているから
事故を起こしやすい?

A

認知機能が落ちていることが、交通事故を起こす大きな原因となるのは確かです。判断が遅くなることや操作を間違えるが増えてしまうためです。しかし、股関節や足首が硬くなったり、太ももの筋力が衰えたりすることも事故を起こす要因と言われています。自分の思うよりも体が動いておらず、アクセルとブレーキを同時に踏んでしまったという事故も増えているようです。脳と体の健康を保ち、日々の安全運転を心がけましょう。

リハビリテーション科 諏訪部 亮太

旬のひと皿

今回の 2024 SUMMER

食材



トマト



オクラ



おでんという、熱々の料理を思い浮かべるかもしれませんが、これは冷たいおでん。しかも煮込みではなく、お出汁に浸した、いわば煮浸しのようなものと言ってもいいかもしれません。ひんやり冷たく、お出汁もスープ感覚でそのまま飲めるので、食欲の出ない暑い時期にぴったりの一品。トマトは最近おでんのネタとしても人気上昇中。和風のだし汁と意外に相性が良いのでおすすめです。トマトには抗酸化作用の高いリコピンという栄養素が豊富。彩りに添えたネバネバ野菜のオクラも食物繊維が豊富で消化促進を助ける働きがあり、夏バテ予防にも適しています。

だし汁やトマトは粗熱をとった後、少し温かさが残るくらいで冷蔵庫に入れて冷やします。冷やす時間を伸ばしてひと晩くらいおいておくと、さらに味がしみこんでおいしくいただけます。

トマトの冷製おでん

- ① 白だしを作る:みりん、酒を鍋に入れ火にかけてアルコールを飛ばしたら、だし汁、塩、薄口醤油を入れて沸騰させる。
- ② トマトは湯剥きする。
- ③ オクラはヘタをとり塩ずりして茹でておく。
- ④ 保存容器に粗熱を取った②、③を入れ、①の白だしを入れる。
白だしはトマトが浸る程度入れる。
- ⑤ ④を冷蔵庫に入れ2時間ほど冷やす。
- ⑥ 器にトマト、オクラ、を盛り付け、付けていた白だしのうち100ml程度取って器に張る。

Recipe (1人分)

栄養価(1人分)

エネルギー 67kcal/タンパク質1.6g/脂質0.2g/
食塩相当量1.5g/食物繊維相当量2.5g
※盛り付け分の白だし100ml分を含めて計算

トマト(あれば完熟トマト)	1個
オクラ	2本
白だし	300ml
(白だし用)	
だし汁	250ml
(昆布・かつおぶし/顆粒)	
だしでも可)	
みりん	30ml
酒	20ml
塩	4g
薄口醤油	小さじ1

レシピ作成・監修:第三病院栄養部 管理栄養士 中山 美和

患者さんの声にお答えします！

患者さんから寄せられたご質問やご要望をご紹介します、
当院の取り組みについてご説明します。

VOICE 1

入院をすることになりました。
パジャマやタオルのレンタル
サービスはありますか？

当院の取り組み

入院セットとして「パジャマタオルセット」のレンタルや「おむつセット」の申込サービスがございます。詳細については、ホームページに掲載いたしましたのでご覧ください。「入院手続き」のページでご確認いただけます。



VOICE 2

会計時の自動精算機の使い
方に困ることがあります。

当院の取り組み

精算機につきましては、お近くの事務員にお声がけください。お困りの様子の方は、事務員よりお声がけしておりますが、レジでの対応もできますので、計算受付にてお気軽にご相談ください。

来院される患者さんは、どなたも何かしらの不安を抱えていらっしゃいます。スタッフ一同、それぞれの専門分野で、できるだけ患者さんの不安が軽くなるよう、努力して参りたいと考えております。



東京慈恵会医科大学附属第三病院

〒201-8601 東京都狛江市 和泉本町4丁目11-1

〈受付時間〉8:00-11:30 〈診療時間〉8:45～

〈休診日〉日曜・祝日、大学記念日(5/1、10月第2土曜)、年末年始(12/29～1/3)

上記以外の休診日につきましては当院ホームページをご確認ください。

〈お問い合わせ〉03-3480-1151(大代表)、<http://www.jikei.ac.jp/hospital/daisan/index.html>

発行:東京慈恵会医科大学附属第三病院広報委員会

